

当学会会員がより一層学術会議に対する関心を喚起されたい旨の要望が述べられた。

(2) 学術会議有権者登録の要望

(安藤 理事)

先般行われた学術会議の会員選挙に際して、気象学会関係の有権者数は、前回に比べてかなり減少していた。一方学会員数は増加して2000名を超えている現状にかんがみると、これは当学会々員の学術会議への関心が低下しているように見受けられる。さきにも報告があったように、今後当学会を学術会議との関連はますます大きなものと考えられるので、会員の学術会議への関心が深まることを要望する。それに関連して、会員が進んで学術会議の有権者の登録を行われるように希望する。研究グループ懇談会その他からもこれについての要望があったので、この機会に会員に願する次第である。

(3) Tokyo Meeting on Diffusion について

(正野 理事)

本年9月に京都で開かれる境界層と乱流のシンポジウムに拡散関係の権威者が集まる機会を利用して、9月16、17日の両日気象庁で、上記の Meeting を本学会主催で開催する。会員の中この方面にご関心のある方は、ご参加いただきたい旨、正野理事から要望された。

(4) 中国訪問学術代表国派遣について

(岸保 理事)

日中友好協会学術委員のあっせんによって、来る8月中旬より1カ月の予定で訪中学術代表団を送ることになったが、気象学会にも団員の推せん方を依頼されている。気象学会としてもぜひ会員を代表団の一員として派遣したいので、総会の承認をえたい。また会員を派遣するとなれば、国際学術交流委員会で募金を行うことになるが、これについても合わせて承解をえたい。以上の提案に対しては賛成多数で可決された。

(5) 昭和42年度当番支部について

(安藤 理事)

来年度の当番支部は、東北支部がその順にあたり、内諾をえてあるので、総会の承認を願いたい旨の提案があり、満場異議なく可決された。

昭和41年度日本気象学会賞受賞者推せん理由

気象レーダーによる気象現象の解析的研究

立平良三

(東京管区気象台技術部技術課)

レーダーが気象の分野に導入されて以来、多量の新しい情報が提供されるようになった。とりわけ、メソスケ

ールの現象に関しては極めて有力な観測手段となっている。

立平氏は、東京管区気象台および名古屋地方気象台でレーダー観測の現業にたずさわるかたわら、レーダーが持っている性能を十二分に駆使して、寒冷前線・台風、梅雨末期の豪雨、北陸豪雪などが国に大きな影響を及ぼしている気象現象をくわしく解析した。これらの解析は、単なる現象的な解明にとどまらず、物理的機構に対する深い洞察の上に立って、大膽に気象観測データを処理し、注目すべき数々のモデルを作りあげること成功している。

また観測手段としての気象レーダーの利用法ならびにその精度、限界などについても、大きな貢献をしている。

とりわけ、寒冷前線の微細構造に関し、エコーセルの発生源は前線のすぐ寒気側にあり、ここから次々に発生するセルが上層風に流されながら数時間持続するために線状エコーが形成されるという見解を見事に解析的に立証することに成功した。この見解は他の多くの現象に対しても適用することが試みられている。

また、記録すべき災害をもたらした36.6豪雨は、巨大な地雨性降雨帯が持続したために起ったことを示し、メソスケールの循環が維持されるための機構について、乏しい資料をフルに活用して一つの仮説を作り上げた。

このほか一連の独創的な研究により、わが国のレーダー気象学の発展のために寄与した。氏の業績を高く評価して、ここに日本気象学会賞を授与する次第である。

関係論文

寒冷前線のレーダーおよびメソ解析 (1961年10月6日の場合) 気象集誌 41(3), 145~157(深津林と共著)
レーダー降水探知能力の距離による低下について 気象集誌 41(4), 255~260

Structure and mechanism of a Huge Radar Rain-band 気象集誌 42(6), 362~371

北陸豪雪のレーダー解析—各古屋レーダーによる— 天気 12(10), 319~322 (深津林と共著)

台風の降雨帯の解析 (5821号の場合) 研究時報 13(4) 264~279

対流性エコーとこれに伴う積乱雲 研究時報 14(2), 129~232 (桜井幸三と共著)

台風5907号の降雨帯の解析 (5821号との比較) 研究時報 14(9), 621~630

レーダーによるエコー頂高度測定に伴う誤差について

—アンテナ指向特性の影響— 研究時報 14 (10),
737~742 (松野光雄と共著)

PPI スコープを利用した RHI 表示について 測候時
報 28(8), 336~338.

昭和41年度藤原賞受賞者推せん理由

大気の熱収支および放射平衡に関する研究

真鍋 淑 郎

(General Circulation Laboratory, U.S. Weather
Bureau)

真鍋淑郎氏は日本海の熱収支をはじめとして、地球大
気放射平衡、放射及び水収支の影響を考慮して大気循
環の数値実験的研究等を行い、気象学の発展に大いに寄
与した。

日本海の熱収支の研究は熱収支法によって消洋と大気
との間のエネルギー交換を解明したもので、この種の研
究の代表的なものの一つとして高く評価されている。また
地球大気放射平衡の研究は水蒸気、炭酸ガス、オゾン等
の複雑な吸収性およびこれら大気成分の分布特性を導
入し、従来困難なものとしていた放射平衡方程式の
数値解を求めたもので、その結果は大気熱収支の解明
に欠かすことの出来ない基礎資料である。さらに同氏は
大気循環の研究の今後の方向を示向を示すと思われる一
連の研究に着手し、既に多くの成果を挙げている。即ち
同氏は大気構造としては多層モデルを考え、循環機構の
要因としては放射、水収支等を適格に導入することによ
って複雑な大気循環の模様を数値実験的に再現すること
に成功している。

これら一連の研究は今後のこの分野の研究に指針を与
え、気象学の体系化に大きく寄与するものと思われるの
で、氏の業績を高く評価し、ここに藤原賞を授与する次
第である。

関係論文

- S. Manabe, 1956: On the contribution of heat released by condensation to the change in pressure pattern. *J. meteor. Soc. Japan*, **34**, 308~320.
- S. Manabe, 1957: On the modification of air-mass over the Japan Sea when the outburst of cold air predominates. *J. meteor. Soc. Japan*, **35**, 311~326.
- S. Manabe, 1958: On the estimation of energy exchange between the Japan Sea and the atmosphere during winter based upon the energy budget of both the atmosphere and the sea. *J. meteor. Soc. Japan*, **36**, 123~134.
- S. Manabe and F. Möller, 1961: On the radiative equilibrium and heat balance of the atmosphere. *Mon. Wea. Rev.*, **89**, 503~532.
- F. Möller and S. Manabe, 1961: Über das strahlungsgleichgewicht der Atmosphäre. *Z. für Meteor.*, **15**, 3~8.
- S. Manabe and R.F. Strickler, 1964: Thermal equilibrium of the atmosphere with a convective adjustment. *J. atmos. Sci.*, **21**, 361~385.
- J. Smagorinsky, S. Manabe and J.L. Holloway, 1965: Numerical results from a nine-level general circulation model of the atmosphere. *Mon. Wea. Rev.*, **93**, 727~768.
- S. Manabe, J. Smagorinsky, and R.F. Strickler, 1965: Simulated climatology of a general circulation model with a hydrological cycle. *Mon. Wea. Rev.*, **93**, 769~798.

第13回 風のシンポジウム研究発表募集について

1. 期 日 1966年11月18日(金)
2. 会 場 気象庁内
3. 共催学会 日本気象学会・日本海洋学会・日本建築学会・土木学会・日本航空学会・地震学会・日本地理学会・日本林学会・日本農業気象学会(幹事学会)
4. 研究発表申込 8月25日(木)までに発表者(所属)、題目、所要時間、スライド有無を下記に申込むこと。

記

東京都千代田区大手町 気象庁観測部測器課 竹内清秀